

女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるために

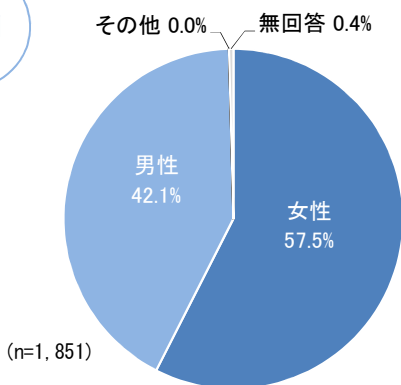
豊中市では、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会をめざして、「第2次豊中市男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画推進のための取組みを行っています。この調査は、今後の男女共同参画に関する施策を推進するうえでの基礎資料とすることを目的として実施しました。

調査の概要

- **調査対象**
豊中市内に居住する満20歳以上の男女4,000人
- **調査方法**
郵送による配布および回収(督促はがき1回配布)
- **調査期間**
平成27年(2015年)9月18日から10月2日まで
- **有効回収数**
1,851人(有効回収率 46.3%)

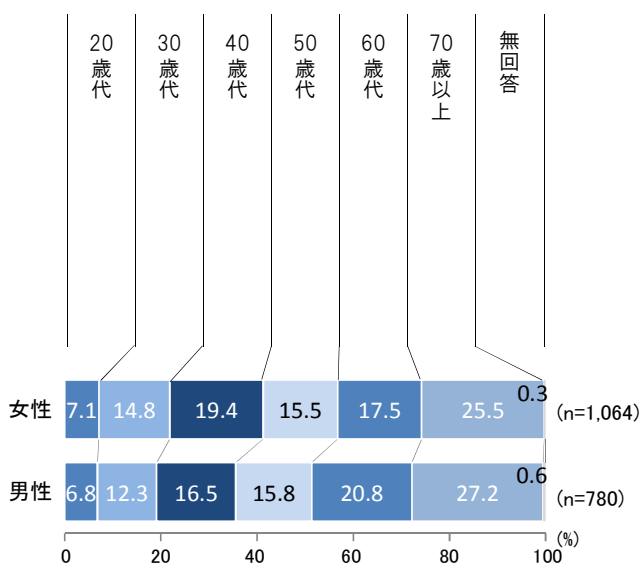
回答いただいた方々のプロフィール

性別

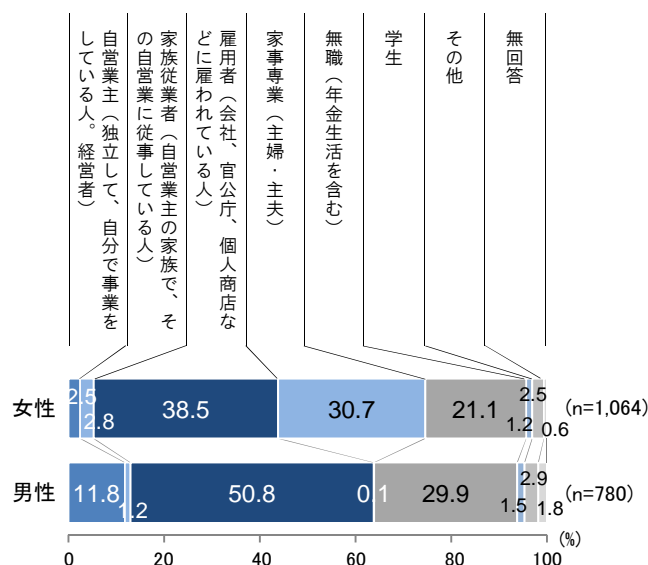


回答者は、女性が50%以上を占め、男女とも50歳以上の割合が高くなっています。就業状況を見ると、男女とも「雇用者」が最も多く、女性は約4割、男性では半数を占めています。

年齢



職業



【概要版の見方】
 ・調査結果の数値は%で、回答者数はnで示しています。
 ・数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
 ・複数回答の場合は、合計が100%を超える場合があります。

平成28年(2016年)3月
豊中市

豊中市では こんな社会を めざしています！

「男女共同参画社会とは」
～豊中市男女共同参画推進条例前文より抜粋～

すべての人の人権が尊重され、自らの意思で生き方を選択し、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に対等に参画することができる男女平等を前提とする社会

日常生活や社会全般についての考え方

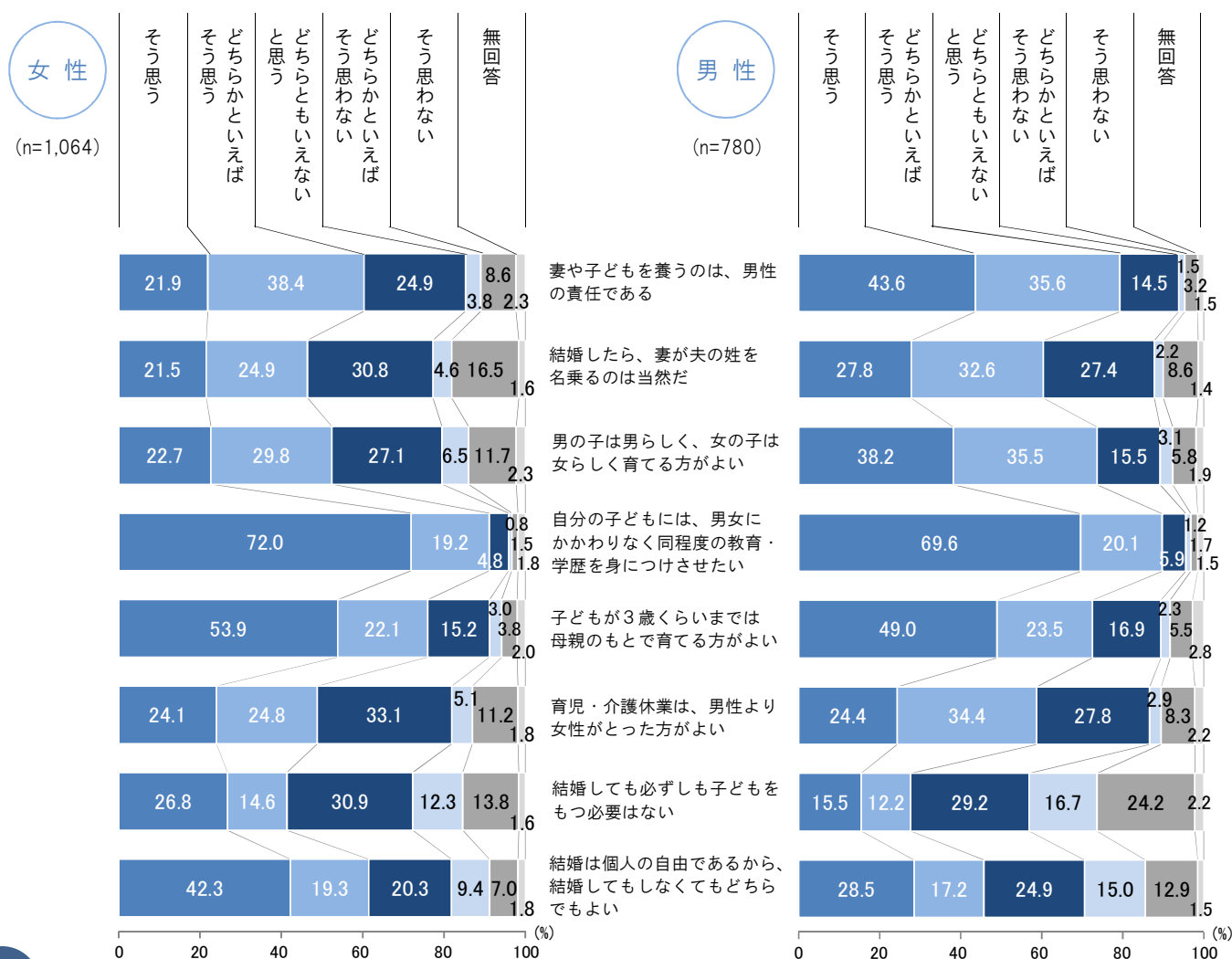
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定派』の割合では、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、女性の割合が男性に比べ10ポイント以上高くなっています。

「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育・学歴を身につけさせたい」は男女とも9割前後を占める反面、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」は女性の割合

が高く、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」は男性の割合が高くなっています。子どもの教育に関しては男女とも共通の考え方を持っている反面、子育て過程においては、男女とも伝統的な考えが根強い面もみられます。

男性の場合では、「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」や「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」の各割合も女性に比べ10ポイント以上高く、伝統的な家族観が女性よりも強い傾向がうかがえます。

Q. あなたは、次の項目についてどのように思いますか。



各分野での男女平等感/雇用の場における男女平等感

各分野で男女が「平等になっている」と思う割合は、「学校教育の場（児童・生徒の立場から）」が男女ともに最も多くなっています。「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」「政治の場で」「職場で」では、男女とも『男性優遇』の割合が高いです。「家庭生活で」や「法律や制度で」「自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場」では、女性の『男性優遇』の割合が高いです。

すべての項目で「平等になっている」は、男性よりも女性の回答が低いです。

収入を得る仕事をしている人に雇用の場における男女平等感についてたずねたところ、『男性優遇』は、男女とも「昇給や賃金水準」と「昇進・昇格、管理職への登用」で割合が高く、それぞれ4割台と5割台となっています。

「平等になっている」は、「研修の機会や内容」と「働き続けやすい雰囲気」で、男女とも4～5割台で最も多くなっています。

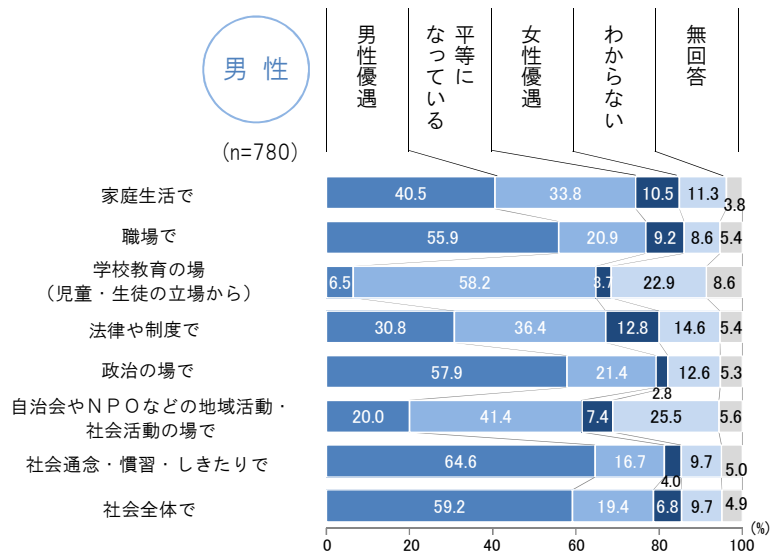
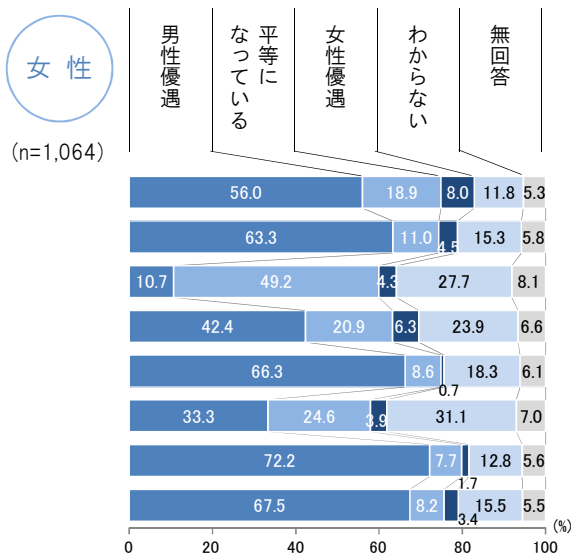
『女性優遇』は、男女とも「育児・介護休暇のとりやすさ」が5割前後で最も高く、女性より男性のほうがやや高い割合となっています。

雇用の場における男女平等感の回答からは、男性が育児・介護に関する制度を利用することが困難であるという認識がうかがえます。

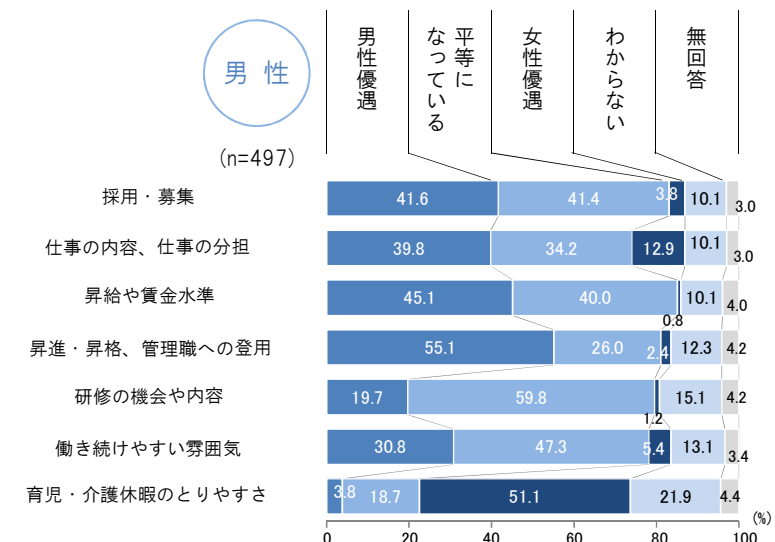
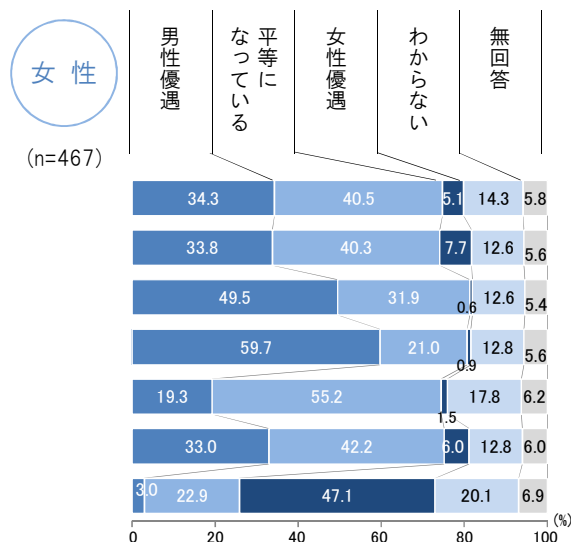
※『男性優遇』:「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した割合

※『女性優遇』:「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合計した割合

Q. あなたは、一般的に、次の各分野で男女は平等になっていると思いますか。



Q. あなたは、雇用の場は次の項目について男女は平等になっていると思いますか。



希望する暮らし方／現実の生活

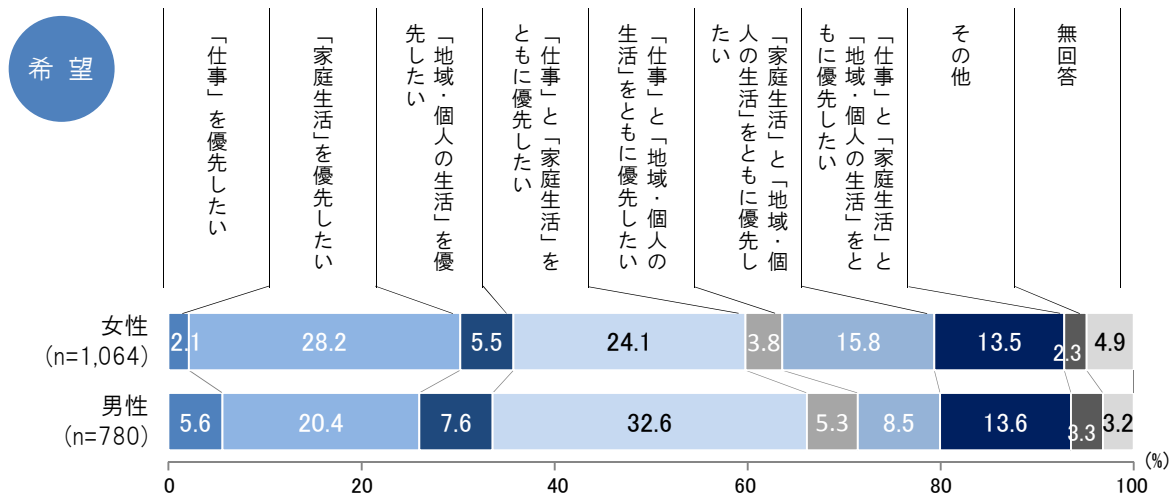
希望する暮らし方では、女性では「家庭生活を優先したい」「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の順で多くなっています。男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の順で多くなっています。

「現実の生活」は、女性では「家庭生活を優先している」が最も多く、次いで「仕事を優先している」「仕事と家庭生活をともに優先している」

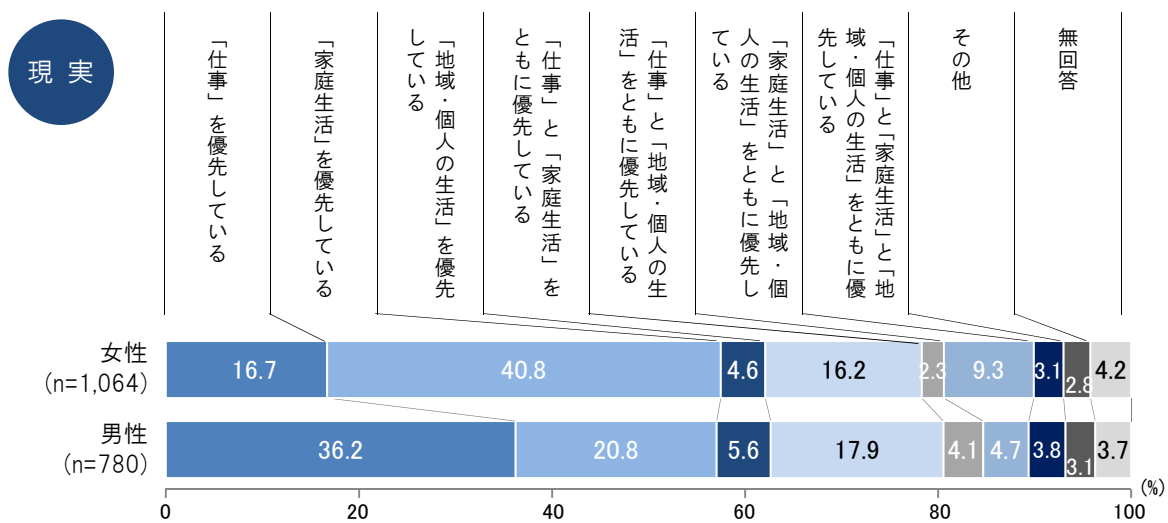
の順で多くなっています。男性では「仕事を優先している」「家庭生活を優先している」「仕事と家庭生活をともに優先している」の順で多くなっています。

女性の場合は仕事と家庭生活の両立を望んでも現実には「仕事」または「家庭生活」のいずれかを優先せざるを得ない人が多く、男性は仕事優先を望んでいないにもかかわらず「仕事」を優先せざるを得ない人が多くなっています。

Q. あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。



Q. あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。



※この調査での「地域・個人の生活」とは、地域活動、学習・趣味・付き合い等のことをいう。

家庭での分担（理想と現実）

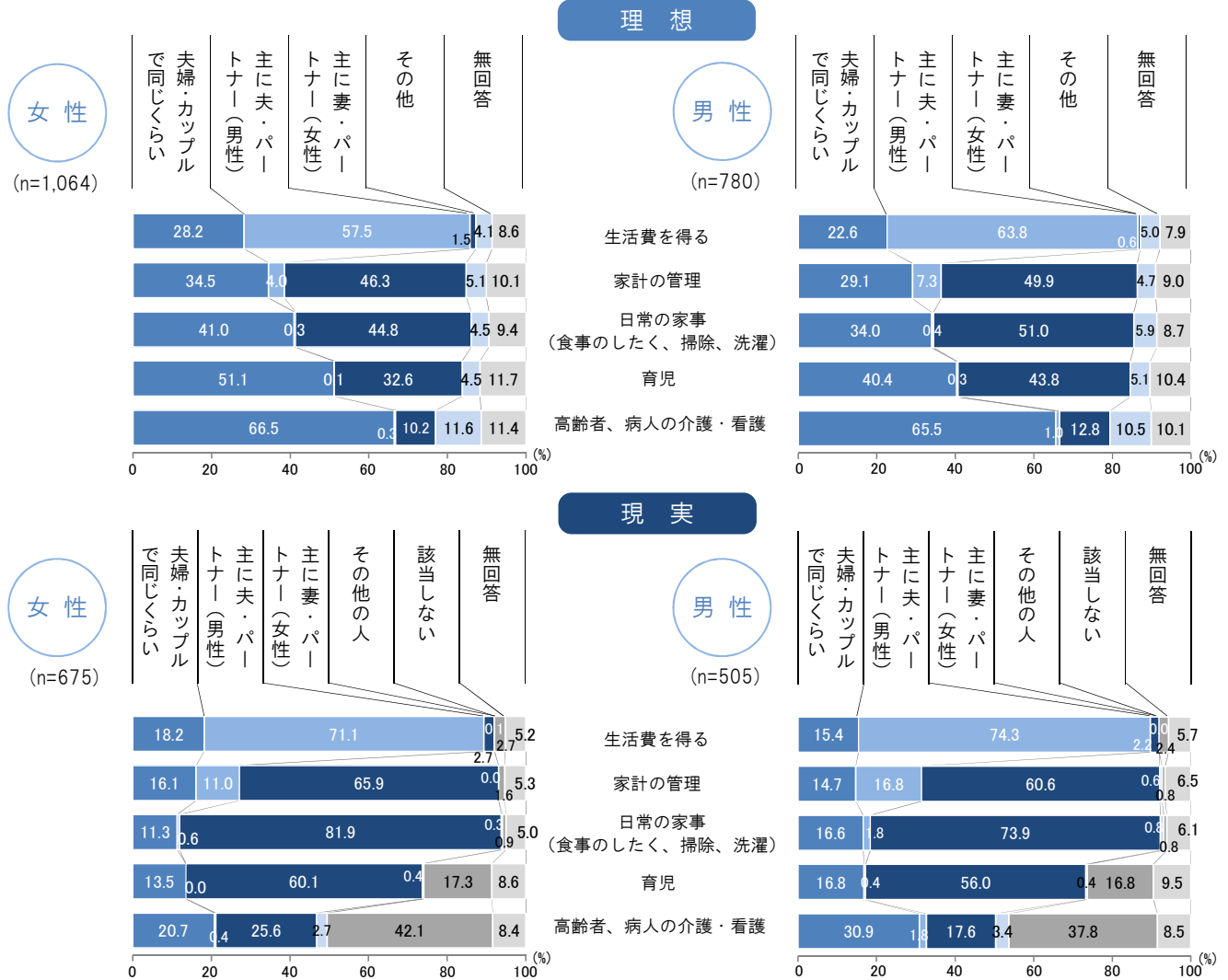
理想 男女とも「生活費を得る」は、「主に夫・パートナー（男性）」が多いです。「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」では、男女とも「主に妻・パートナー（女性）」が多く、男性にその割合が高いです。「育児」では、女性は「夫婦・カップルで同じくらい」が多く、男性は「主に妻・パートナー（女性）」が多いです。「高齢者、病人の介護・看護」では、男女とも「夫婦・カップルで同じくらい」が多いです。

現実 男女とも「生活費を得る」は「主に夫・パートナー（男性）」が、「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「育児」は、「主に妻・パートナー（女性）」が多く、理想よ

りも現実でその割合は高いです。「高齢者、病人の介護・看護」では、「該当しない」を除くと女性は「主に妻・パートナー（女性）」が多く、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が多いです。

「夫婦・カップルで同じくらい」と回答した男女の理想と現実を比べると、男女ともすべての項目で理想より現実の割合が低くなっています。日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）、育児や介護などでは理想と現実の差が大きく、その差は男性より女性に大きい傾向があります。このことから、女性の方が夫婦でより平等な分担を理想と考える一方で、現実を厳しく見ている様子が見えます。

Q. 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。



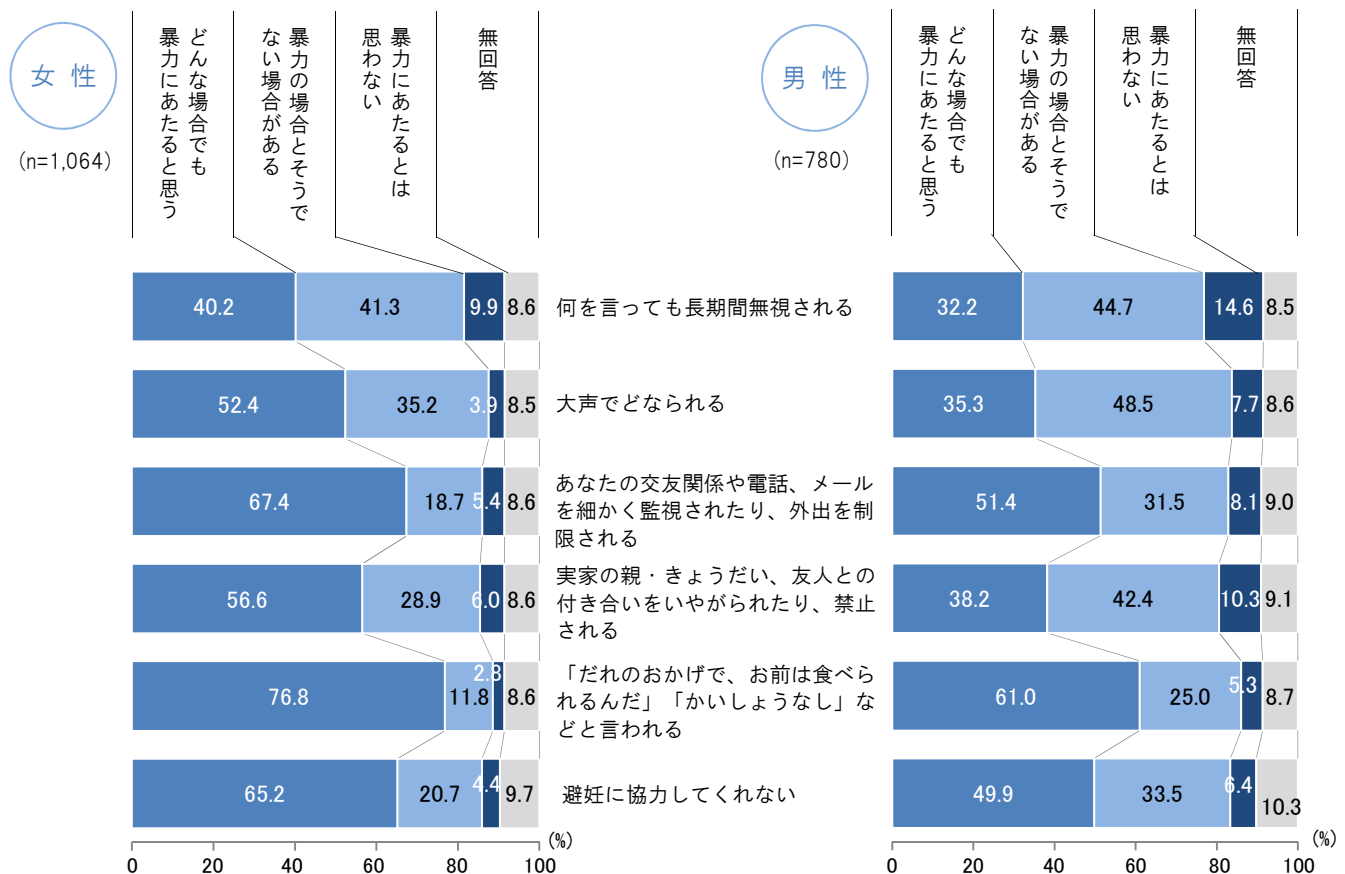
配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイレンス DV)に対する認識

DVに対する認識について、女性では、「何を言っても長期間無視される」以外の項目は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上を占めています。男性では、「何を言っても長期間無視される」や「大声でどなられる」「実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」以外の項目では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、すべての項目で女性の方が高くなっています。男女差が大きい項目は順に「実家の親・

きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される」「大声でどなられる」「あなたの交友関係や電話、メールを細かく監視されたり、外出を制限される」「だれのおかげで、お前は食べられるんだ、かいしょうなしなどと言われる」「避妊に協力してくれない」で、中でも社会的暴力である外出の制限や付き合いの禁止などにおいて、男女間の認識に大きな差が存在します。

Q. あなたは、配偶者・パートナー・恋人から次のようなことをされることは暴力にあたると思いますか。



※調査は17項目で実施。主な項目のみ抜粋

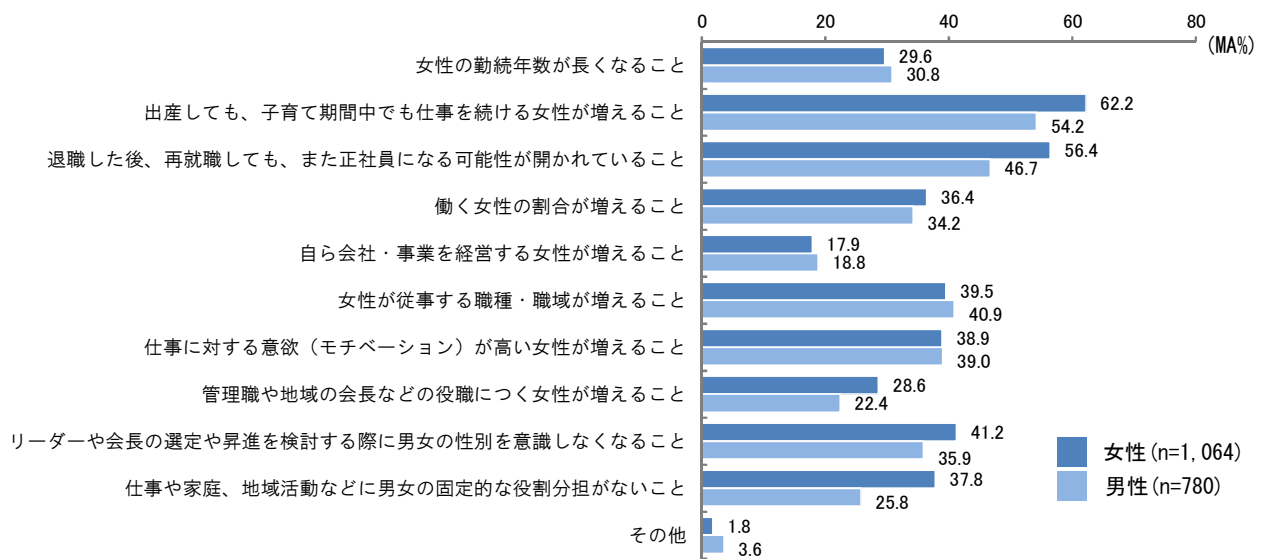
女性と男性がともに暮らしやすい社会をつくるために

「女性の活躍が推進されている」状態については、男女とも「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が最も多く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」となっています。いずれも男性より女性の割合が高いです。

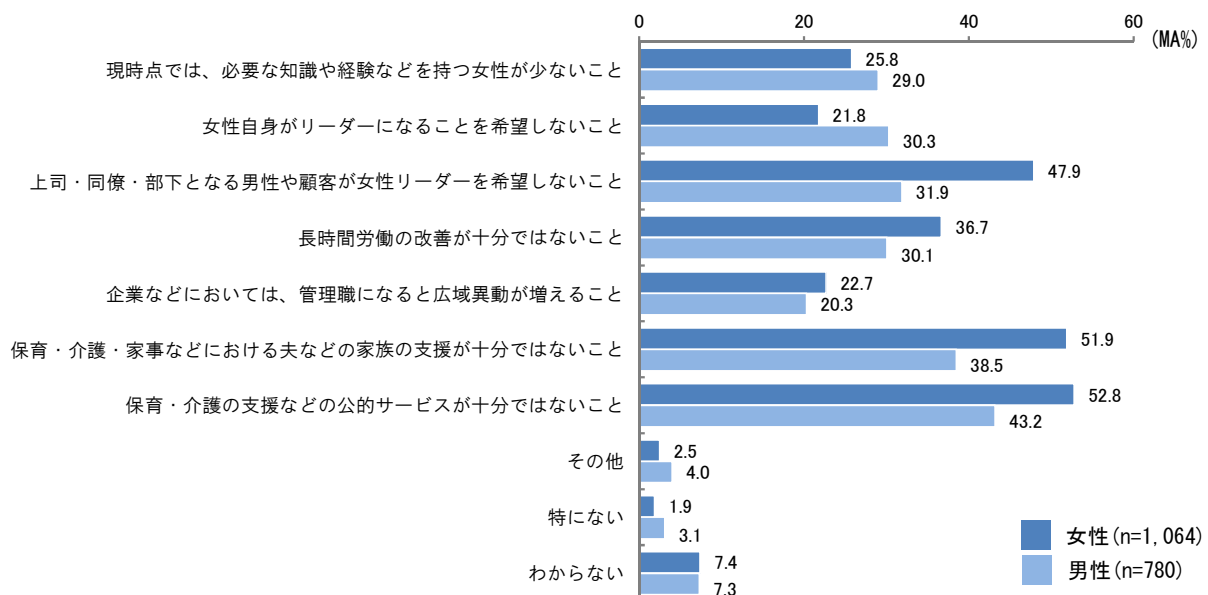
政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、男女とも「保育・介護の支援などの公的サービスが十

分ではないこと」が最も多く、次いで、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」などとなっています。「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」といった女性に原因があるとする見方については、男性の割合の方が高くなっています。

Q. あなたは、「女性の活躍が推進されている」とはどのような状態だと思いますか。



Q. あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。



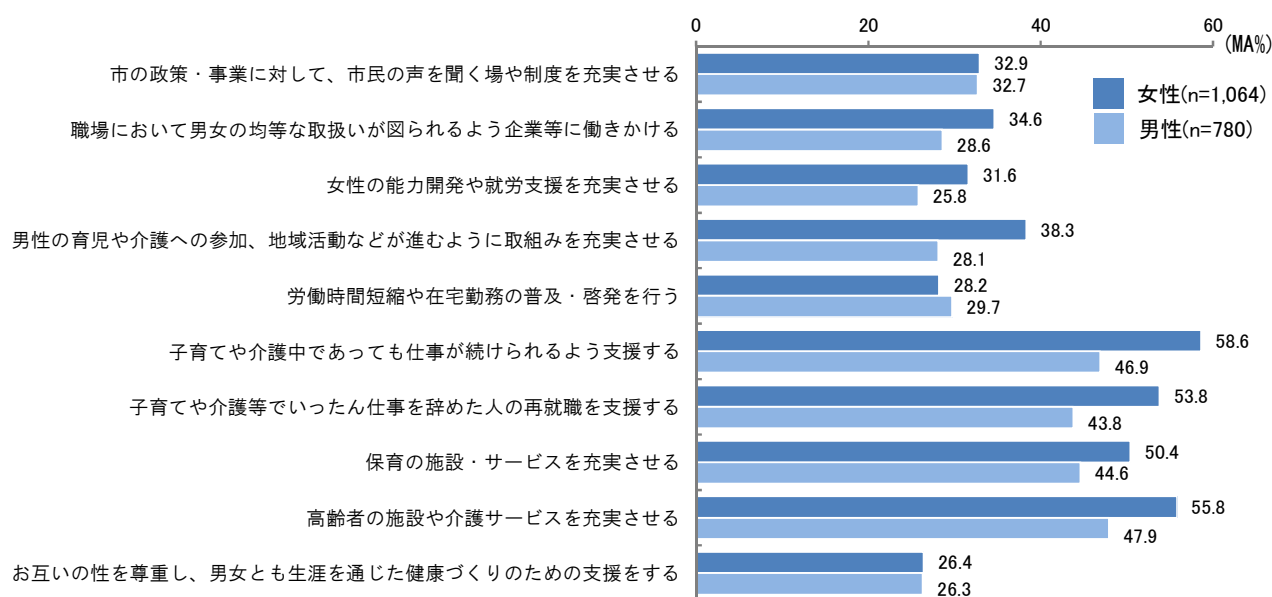
女性と男性がともに暮らしやすい社会をつくるために

男女共同参画社会の推進のために市が今後力を入れていくべきことについては、女性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も多く、次いで「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「保育の施設・サービスを充実させる」が続いており、家事・育児・介護といった性別役割分担における女性役割とそれらと仕事との両立について

の項目が上位に挙がっています。男性においても、女性が上位4つに挙げた項目が、若干順位は異なるものの上位を占めています。

女性の活躍と男女共同参画推進のためには、子育て・介護サービスを充実、それらの責任を家族皆で分かち合うための啓発、再就職支援、男女ともに仕事と子育て・介護を両立できる労働環境の整備などが課題であることがうかがえます。

Q. あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。



※主な項目のみ抜粋

「女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート」

結果報告書 概要版

発行 平成28年（2016年）3月

豊中市人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚3-1-1 TEL：06-6858-2654